

九回熊本県剣道連盟会長旗 第9回争奪剣道大会開かる

監督 木下文男

平成十一年熊本国体での剣道の部総合優勝を記念して始まった本大会も九回目となった。平成二十年十月十九日に南阿蘇村長陽体育館で行われた。

各支部対抗の二十二チームが参加した。天草から一番遠い阿蘇での開催ということになった。崇城大学の阿蘇研修所に泊まる。経費が安くついた。

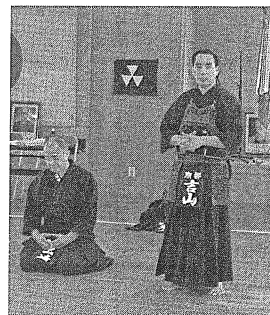
天草から二チームの参加。一チーム十一名、選手計二十名で大会に臨んだ。試合は一本勝負の試合構成。日本でも珍しい内容の大会である。選手は皆、全力を尽くして頑張ったが、天草Bチームは二敗を喫し予選敗退。天草Aチームが二勝で決勝トーナメントに進出。しかし阿蘇郡チームにチーム成績一勝七敗三分で敗れた。上位入賞はならなかったものの、決勝トーナメントに進出できたことで結果が残せたと思う。

今回の選手選考方法として、学生の部においては、天草内の主要各大会上位入賞者を対象に選考、リーグ戦を行い選手決定。一般の部は、数少ない試合の結果と、実績のある剣士を対象に総合的に決定しているわけである。今後は、もっと早くより候補選手を選出、強化練習を実施して、

一本勝負での気の抜けない充実した攻めの出来る剣士とな

吉山満氏講習会開かる

「悩める剣士に贈る・剣道昇段審査合格術」。この書名にピンと来る方は、相当の剣道本の愛読者か、かなり審査で苦労された方ではなからうか。その著者自身が数え切れぬ程の審査不合格経験をもとに標題の本を書いたというだけあって、正に微に入り細に渡り、吾々凡人剣士の身になつて書かれた力作である。実はこの本の著者吉山満先生に編集子は京都での母校大学のOB稽古会でお会いしたことがある。かなりの熊本通で本連盟の木下文男先生とも知り合いで、その縁で天草での講習会が実現した。十一月二十二日から二十四日までの稽古会、講習会、その間二晩の第二道場とまさに剣道漬けの三日間が始まった。審査合格を視野に入れた講習会とはいっても、その中身は従来からの剣道の稽古法となら変わるどころはない。ただ「これくらいいいか」という曖昧さを排除する真摯な剣道観に基づいた稽古法である。その詳しい内容は講習会受講者にお聞きいただくか、かの本を購入して読んで勉強していただくように指導していきたい。大会にご協力いただいた役員、選手、応援のご家族の方々に御礼申し上げます。



「悩める剣士に贈る・剣道昇段審査合格術」。この書名にピンと来る方は、相当の剣道本の愛読者か、かなり審査で苦労された方ではなからうか。その著者自身が数え切れぬ程の審査不合格経験をもとに標題の本を書いたというだけあって、正に微に入り細に渡り、吾々凡人剣士の身になつて書かれた力作である。実はこの本の著者吉山満先生に編集子は京都での母校大学のOB稽古会でお会いしたことがある。かなりの熊本通で本連盟の木下文男先生とも知り合いで、その縁で天草での講習会が実現した。十一月二十二日から二十四日までの稽古会、講習会、その間二晩の第二道場とまさに剣道漬けの三日間が始まった。審査合格を視野に入れた講習会とはいっても、その中身は従来からの剣道の稽古法となら変わるどころはない。ただ「これくらいいいか」という曖昧さを排除する真摯な剣道観に基づいた稽古法である。その詳しい内容は講習会受講者にお聞きいただくか、かの本を購入して読んで勉強していただくように指導していきたい。大会にご協力いただいた役員、選手、応援のご家族の方々に御礼申し上げます。

きたい。さて当日は八十歳で見事八段に合格された緒方仁司先生、一昨年七十六歳で六段を取られた東京在の熊本出身の音楽家岩代浩一先生、長崎の剣道家出崎七段、御所浦の合同稽古に参加されたこともある玉名の小島七段、それに編集子の大学後輩数名、さらに吉山先生の「追っかけ女性剣士」など、京都、兵庫、岡山、福岡などから実に様々なかつ華やかな御一行で吾々天草の剣士は久しぶりに全国版の剣道交流を堪能した。講習の中身のポイントは受講者それぞれの受け止め方であるうからここに特記しない。ただ編集子が今までの甘い考えを覆された吉山先生の指導を一つだけ紹介しよう。それは「打ったのは俺だ！」の打突を目指せということである。先の打ち、相の打ち、後の先

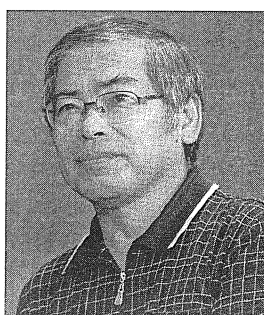


等々、色々な打ち間がある。しかし打ったのがどちらか分からぬような、偶発的で結果論的な、つまりポリシーのない打突でよいのか。確たる剣理で過たぬ打突の機会を「心！」と捉え、まごうなき明らか一本を工夫錬磨せよ。一本の技は吾のすべてである。攻め・機会・打ち間・打突・残心、この一連を明らかに意思をもって執り行い紛れなき一本を求めよ、と解釈した。誤解してはならない。決してわが打ちを引き上げたり誇示する事ではない。そのためには「心身一如」の鍛錬が必要な事は言うまでもない。昭和二十二年生まれの吉山先生の青年の如き引き締まった体軀はその努力を物語っていた。ところでこの講習会から現時点で二ヶ月が経ったが、受講した会員の中には明らかに創意工夫する者が出てきており、過日編集子は常連の仲間と稽古中、思わず得意即妙の技を某氏から頂き、その努力と開眼に敬服します。この間、皆様方に何のお役にも立てず、心苦しく思っていました。そんな折、益田先生から、「剣道あまくさ」への寄稿の依頼があり、せめてそのくらいは貢献せねばと思ひ、ペンをとっている次第です。

さて、今回は、自分のこれまでの人生をふり返り、剣道をしてきたおかげで、ずいぶんと助けられたことがあります。天草剣道連盟のみなさん、天草地区の剣道愛好家のみなさん。御無沙汰いたしております。私は、前任校の五木北小学校に3年間、そして現任校である水俣市立水東小学校に約1年間勤務しており、天草を離れて約4年間にもなります。この間、皆様方に何のお役にも立てず、心苦しく思っていました。そんな折、益田先生から、「剣道あまくさ」への寄稿の依頼があり、せめてそのくらいは貢献せねばと思ひ、ペンをとっている次第です。

「剣道のおかげ」

水俣市立水東小学校校長 泉 眞喜夫



たので、その事を書かせてもらいたいと思います。まず、大学生時代のことで、私は、体格、体力的に劣っていたので、週末ともなれば、剣道の稽古の疲労がたまり、講義に出るのも辛い時期がありました。特に、金曜日の第一講義として行われる倫理学の講義は、朝起きるのが辛くて、つい自主休講を決め込むことが多かったです。何回か自主休講が続くと大学の掲示板に倫理学の教授から、個人名で呼び出しのピラが張り出されました。教授の部屋に行くのと、「なぜ君は、多くの講義に出ないのかね」と質問されました。私は、正直に「剣道の稽古がきつくて、週末には疲れがたまり、金曜日の朝起きが辛くて、つい自主休講をしてしまいました。」と言いました。すると、教授は、「君は剣道をしているのかね、実は、ぼくも学生の頃、剣道をしていましたよ。これからの講義に全部出席すれば、試験